

第1学年 社会科学習指導案

指導者 吉田 浩之

- 1 日時 平成28年11月16日(水) 第5校時
- 2 学級 一関市立大東中学校1年A組 男子12名 女子16名 28名
- 3 単元名 第3章 北アメリカ州 「広大な国土と工業化した農業」
(地理的分野/東京書籍)
- 4 単元について

本単元は、世界の諸地域の第4節にあたり、北アメリカの地域的特色を理解するために、アメリカ合衆国の産業に関する生産についての基本的な社会的事象を取り上げ、身近な事例と関連付けて学習する内容となっている。学習指導要領では、そこに暮らす人々の生活の様子を的確に把握させ、自分たちの生活と比較することにより社会的な見方、考え方を育成することを主な目的としている。また、農業問題に対する関心を高め、食料の選択において賢い消費者となって自立するための基本姿勢について考えさせたい。

学習に関する事前調査で学級の半数近くの13名の生徒は、地理的分野への関心・意欲が低かったが、学習課題や発問を工夫したりする中で、徐々に前向きに取り組もうとする。しかし、社会的事象に関する基礎的・基本的知識や、資料をもとに思考を高め、自分の考えをまとめて記述したり表現したりする能力が身につけているとは言えない現状にある。こうした課題を解決するためにも、社会的事象を多面的・多角的に考察する場面を意図的に組み入れた授業の改善や、指導法の工夫が教科の課題であると捉えている。

今年度の研究主題「確かな学力を育成するための学習指導のあり方」との関連では、生徒自身に学習の見通しを持たせるために学習サイクルの構築を図り、予習課題を活用した導入に始まる課題解決型の授業展開を構想している。また、学力向上につながる学習活動としては、グループによる対話や意見交流を軸とした言語活動を取り入れている。生徒全員が主体的に学習活動に参加しながら理解や思考を深め、表現力を高めることをねらいとしている。指導にあたっては、身近な事例にもとづく学習活動を通して、農業に対する関心を高め、自分たちの暮らしとの関係を考えさせたい。また、社会科の生命線である具体的な資料を吟味し、的確な読み取りを行うことによって、主体的に課題を解決しようとする態度を養っていききたい。

5 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の目標

| 目標 | 観点 |
|--|---------------------|
| 北アメリカ州の自然環境、産業、生活・文化、歴史的背景などについて確認する中で、特にアメリカ合衆国の産業について関心を持ち、設定された学習課題、問に対して意欲的に追究している。 | 社会的事象への 関心・意欲・態度 |
| アメリカ合衆国の産業が発達している理由について身近で具体的な事例を通し、経済活動における選択について、消費者・生産者などさまざまな立場から多面的・多角的に考え、公正に判断している。 | 社会的な思考・判 断・表現 |
| アメリカ合衆国の合理的な農業の特色や巨大な工業生産力の様子について様々な資料を収集し活用している。 | 資料活用の技能 |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| アメリカ合衆国の産業について地域的特色を理解し、その知識を身につけている。 | 社会的事象についての知識・理解 |
|---------------------------------------|-----------------|

(2) 単元のシラバス

| 時数 | 学習範囲 | 教科書 | 学習課題 | 評価 | 授業の評価確認問題等 |
|----|----------------|------------|---------------------------|--|-----------------------|
| 1 | 北アメリカ州をながめて | p82 ~85 | なぜアメリカの産業は発達したのか？ | ○歴史的な史実を関連させながら、資源の豊かさ、国の在り方を考えながら産業の形成過程が理解できている。 | ・アメリカの資源、工業地帯の関連は？ |
| 2 | 広大な国土と工業化した農業 | p86 ~87 | なぜアメリカは世界有数の農業生産国、輸出国なのか？ | ○アメリカの農業の仕組み（適地適作、企業的な農業、バイオテクノロジー等）について理解できている。 | ・アグリビジネス、企業的な農業とは？ |
| 3 | 工業の発展と工業地域 | p88 ~89 | なぜアメリカの工業は発展したのか？ | ○アメリカの工業の特色について理解できている。 | ・シリコンバレー、サンベルトとは？ |
| 4 | 産業を支える新しい文化と人々 | p90 ~91 | なぜアメリカに多様な文化が発達したのか？ | ○アメリカの人口構成や経済の視点から地域的特色が理解できている。 | ・世界各地に影響を与えるアメリカ文化とは？ |

6 本時の指導

(1) 本時のねらい

アメリカの農業の特色について考えさせ、企業的な農業のしくみについて理解させることをねらいとする。ここでは、アメリカの農業の特色を理解させることを通して日本の農業の在り方を考えさせたい。

(2) 授業づくりの視点（研究テーマに関わって）

「いわての授業づくり3つの視点」から

【1 学習の見通し】

- ・前時に予習課題を配布し、設問に答えさせることで学習準備を促し、それをもとにした授業を展開できるようにする。（学習サイクル）

【2 学習課題を解決するための学習活動】

- ・資料の読み取りをもとに、具体的に学習内容を理解し考察し、グループ活動による話し合いや発表など、相互の意見を交流するなかで、理解や思考を深める。

【3 学習の振り返り】

- ・自己評価カードを用い、本時の振り返りと自己評価を行う。

(3) 生徒指導の視点・【1学年の実態の分析】

| | | | |
|-------------------|----------------------|--|-------------------------------|
| 終 末 10 分 | 7 振り返り | <ul style="list-style-type: none"> • 本時の学習を振り返る（2～3人） →発展的課題へとつなげる方向で | 【3 振り返り】 <個人> (学習サイクル) |
| | 8 次時の予告 (予習課題の提示) | <ul style="list-style-type: none"> • 次時の学習内容に関わる内容にふれ、教科書をよく読んでくるように指示する | |

板書計画

